資源管理基礎調査（種苗放流）

（要　約）

菊谷　尚久・鈴木　亮

目　　的

青森県資源管理指針に掲載されている魚種のうち、ウスメバルでは陸奥湾来遊稚魚の動向と稚魚の移動分散について、マダラでは移動分散についての調査を行う。

材料と方法

1　ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 24 年 5 月から 6 月にかけて、青森市奥内地区及び後潟地区のホタテ養殖施設において、浮玉に海藻（アカモク）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップを設置し、トラップ浮体に蝟集する稚魚を船上からタモ網にて採集した。

2　ウスメバル（稚魚の移動分散）

当研究所で中間育成した 2 歳魚及び 1 歳魚のウスメバルを用い、平成 24 年 11 月に深浦町深浦から標識放流を実施した。

3　マダラ（移動分散）

脇野沢村漁協が種苗生産したマダラ稚魚を譲り受けて標識放流用種苗とし、平成 24 年 7 月にむつ市脇野沢から標識放流を実施した。

結果と考察

1　ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 24 年度に採集したウスメバル稚魚は 37,500 尾であり、前年度の 500 尾を上回ったものの、一昨年の 98,700 尾には及ばなかった。また、採集したウスメバル稚魚の平均全長は、5 月では 31.1mm、6 月では 26.5mm であった。

2　ウスメバル（稚魚の移動分散）

平成 22、23 年度に採集したウスメバル稚魚を当研究所内で中間育成した 2 歳魚及び 1 歳魚を用い、平成 24 年 11 月 9 日に 141mm サイズの 2 歳魚 130 尾（内標識魚 115 尾、黄色ダーツタグ、刻印アオスイ 0001～0115）、124mm サイズの 1 歳魚 114 尾（内標識魚 106 尾、黄色ダーツタグ、刻印アオスイ 0116～0221）を深浦港内に標識放流した。

3　マダラ（移動分散）

当研究所におけるマダラ種苗生産では、ガス病の発生により飼育途中で稚魚が全滅し標識放流用種苗を生産できなかったため、脇野沢村漁協が独自で種苗生産したマダラ稚魚 1 千尾を譲り受けて標識放流用種苗とし、平成 24 年 7 月 31 日に 92mm サイズの稚魚 1,000 尾（うち右腹鰭抜去標識魚 230 尾）を脇野沢の中間育成施設から放流した。

発表誌：平成 24 年度青森県資源管理基礎調査結果報告書．青森県産業技術センター水産総合研究所，平成 25 年 3 月．